

天狗岳怪死事件  
まともめフアイル

— 登山サークル男女6人失踪の謎 —



本書は、もともと二〇二五年十二月に新宿出版より刊行予定の書籍であったが、同社より出版権委譲を受け、SCRAP出版から刊行するものである。



## 目次

第一章	持ち込み	005
第二章	調査開始	033
第三章	天狗岳へ	081
第四章	疑惑	139
第五章	邂逅 <small>かいこう</small>	187
最終章	真実	265
エピローグ	独白	305

## 本書の楽しみ方

● 本書は、二〇二四年に起きた「天狗岳怪死事件」の真相に迫っていく過程を、当時のルポルタージュや各種資料をもとに再構成した一冊です。

● 取材を進める中で、私たち記者は数多くの違和感に直面しました。本書では、その時に抱いた疑問をあえてそのまま提示し、穴埋め形式にしています。私たちが真実にたどり着いたプロセスを、読者の皆様にも追体験していただきたいと思つたためです。ぜひ読者の皆様も考えてみてください。

● 各所に記された問いについて、じっくり考えながら読み進めても、頭の中で整理するだけでも構いません。「だいたい当たっていた」「まったく見当違いだった」といった感覚でお楽しみください。

第一章  
持ち込み

## 二〇二五年一月四日 新宿出版 編集部

私は新宿出版で十五年仕事をしている記者だ。名前は**大栗草介**。まだギリギリ三十代だが、周りには五十より上に見えると言われる。おそらくは増えてきた白髪が原因だろう。いや、学生時代も老け顔と言われていたからそれだけではないのかもしれない。職業柄、年上に見られるのは相手に舐められなくて済むし、勝手に権威のある人間だと判断されることもあるから悪いことばかりではないのだが……。

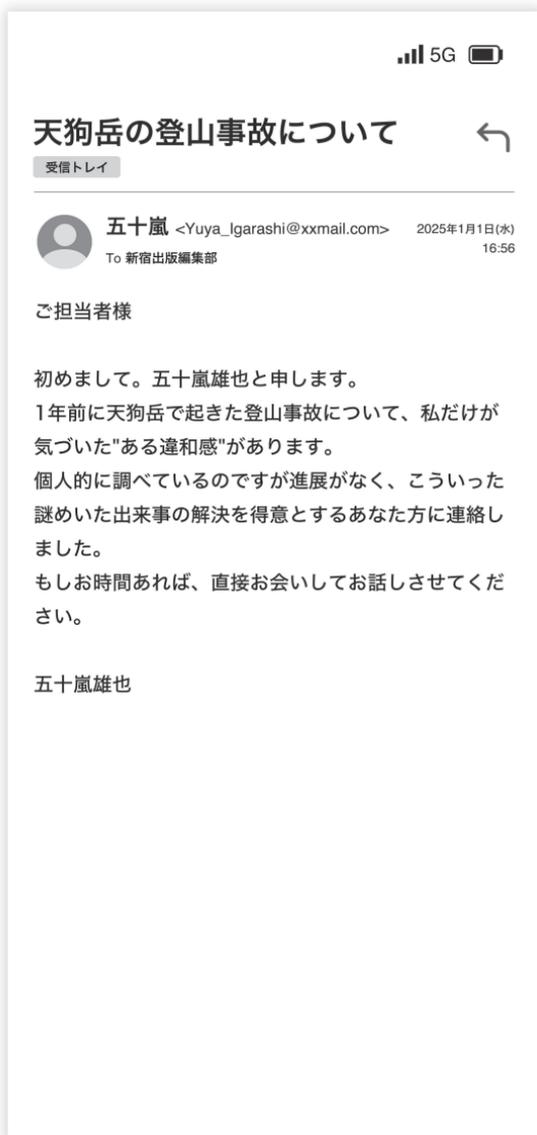
私が所属している週刊新芽編集部は、その名の通り週刊誌を扱う部署だ。同僚たちは日々、虎視眈々とスクープを狙っている。

そんなある日、まだ年明け早々だというのに、私は編集長に会議室へと呼び出されたのであった。

**編集長** おお、来たか**大栗**。先週の廃病院の取材記事は良かった。

**大栗** ありがとうございます。

**編集長** 早速本題に入ろう。三日前に編集部宛にこんなメールが届いたんだが……。



私はメールの内容を確認した。ゴシップ誌も発行している新宿出版には、時々こういった類のメールや手紙が送られてくる。大半はガセネタや事実無根の中傷なのだが……その中にたまに「当たり」があるのだ。予期しないようなスクープのタネが。

**編集長** 前回、投書されたオカルト話からスクープを拾ってきたのは君だ。だから今

回も君にこの件を頼みたい。

**大栗** うまくいくとは限りませんよ？ ただの与太話かもしれません。

**編集長** それはもちろん承知の上だ。何か良いタネが見つかればラッキーくらいの気持ちでいてくれて構わない。とりあえず一度会って話を聞いてみてくれなにか。

**大栗** わかりました。

こうして二日後、私は五十嵐なる人物と対面することになったのだった。

## 二〇二五年一月六日 新宿出版C会議室

暑いほどに暖房が効いた部屋で、私は若い男と向き合っていた。二十代……それとも三十代だろうか？ この時期には珍しく赤く日焼けした顔をしていて、それが年齢をわかりにくくしている。趣味はスキーか何かだろうか。体格は中肉中背で、白い長袖シャツと黒いズボンを身につけていた。

この男がもたらす情報がかくだらない噂話うわさばなしなのか、それとも世間を賑にぎわすようなスクープにつながるのか、私は男を見定めるため口を開いた。

**大栗** 初めまして。私は新宿出版の大栗と申します。

**五十嵐** 初めまして。メールさせていただいた、五十嵐です。この度はお時間を取っていただきありがとうございます。

そこで、私は五十嵐が白い手袋をしていることに気づいた。暖かい室内で手袋をしているというのは少し妙だ。

**大栗** 手袋されているんですね。暑くないですか？

**五十嵐** ああ、ちよつと今肌荒れがひどくて……人に見せられる状態じゃないんです。失礼ですが、このままでも？

**大栗** なるほど、もちろん構いませんよ。そういえば、五十嵐さんは普段は何をされている方なんですか？

**五十嵐** 私はフリーの記者をやっております……こちら名刺です。

**大栗** これはご丁寧にありがとうございます。

フリージャーナリスト

五十嵐雄矢

いがらし ゆうや

---

Mail: Yuya\_Igarashi@xxmail.com

TEL: 080-7374-3336

資料02 五十嵐の名刺

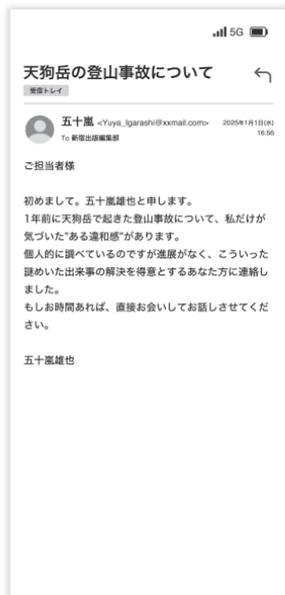
**大栗** なるほど、ジャーナリストの方だったんですね。

**五十嵐** ははは……名刺にはそう書いているんですが、あまり大したものではないですけどね。

**大栗** ……ん？ あれ、これ、何かおかしいような……。

出版社に届いたメールと名刺を見比べ、私はある違和感に気がついた。

↓メールと名刺で「**違和感①**」が違う。  
**メールと名刺を見比べてわかる違和感とは？**



P.007



P.011

五十嵐 どうかされましたか？

大栗 すみません、一つ確認させていただいてもいいですか？

五十嵐 ? はい、何でもしよう？

大栗 メールと名刺で、お**名前の漢字**が違うのですが……。

メールでは「ゆうや」という名前の「や」の漢字が「也」だったが、名刺では「矢」になっていたのだ。

五十嵐 え、本当ですか？ メールを見せてもらっても？

大栗 はい、どうぞ。

五十嵐 うわ、本当だ。すみません、メールは誤字です。名刺に書いてある漢字の方が合っています。たまたまネットカフェのパソコンからメールしたので……。

大栗 ああ、そうだったんですね。

五十嵐 申し訳ないです。ええと、そろそろ本題に入りましょうか。まず、この一年前の新聞を見てください。

新

聞

〈 夕 刊 〉

2024年(令和6年)1月17日(水曜日)



遭難事故が起こった天狗岳中腹ロッジ (HPより)

長野県警は17日、長野県茅野市の天狗岳(2846m)で登山中の6名が遺体で発見されたことを発表した。

遺体が見つかったのは天狗岳中腹に位置する天狗岳中腹ロッジ。11日の雪崩と土砂崩れの発生によって登山ルートが塞がっており、電話などの通信機器を使用

# 天狗岳で6名遭難 全員死亡

## 長野県 全員の身元が不明

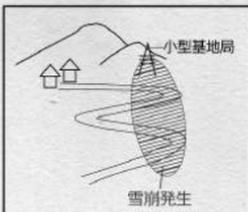
当たった。

なお、遺体の身元については不明で、性別や年齢も現在のところ明らかになっておらず、県警では身元の確認を急いでいる。

天狗岳は、八ヶ岳連峰のほぼ中央に位置する北八ヶ岳最高峰の山。登山者の多くは唐沢鉱泉登山口から黒百合ヒュッテ、中山峠を経由して東天狗岳を目指す。

する小型基地局につながる電源が遮断され救助を呼べなかったものとみられる。12日の時点で雪崩や土砂崩れは確認されていたが、断続的な悪天候と強風により捜索や立ち入りは行なわれていなかった。

17日午前、ロッジ関係者が立ち寄ったことで遺体を発見、その後県警が捜査に



天狗岳は11日雪崩と土砂崩れが発生したことで登山ルートが塞がれた。また、小型基地局の電源も遮断された。



天狗岳中腹ロッジ見取り図

**五十嵐**

図書館で五十円払ってカラーコピーを取ってきました。もともと白黒の記事なので、白黒コピーでよかったですけど……おかげで四十円損しましたよ。この新聞、妙なところがあると思いませんか？

**大栗**

普通の遭難事故の記事だと思いますが……ん？ あれ、本当だ。よく考えるところの事故、ちよつと妙ですね。

違和感② 新聞記事に掲載されているこの事故の違和感は？  
 ↓見取り図を見ると、遺体発見時、全員がロッジ内の「  
 」で死んでいる。



☞ P.015

**大栗** 見取り図を見る限り、発見時に全員が収納の中で死んでいますね。他にも部屋

はたくさんあるのに……この狭い収納ですべての遺体が見つかっている。

**五十嵐** そう！ そうなんです！ そこがおかしいと思つて、私はこの事故に興味を持つたんです。これは裏に何かあるんじゃないかと。

**大栗** その辺り、当時話題にはならなかったんですか？

**五十嵐** 少しだけ話題になりました。でも、吹雪の寒さをみんなで身体を寄せ合つて耐えていたのではという説が出たら、その通りだとなつて終わりでしたね。

**大栗** なるほど……。

**五十嵐** 新聞で報道された後は、この事件に関して一切他のメディアでの報道がなかったんです。だから、その後は話題に上がることはなくなりました。

**大栗** 一切？ それを不審に思う人もいたはずですよ？

**五十嵐** ええ、もちろん。当時はこう呼んでいる人もいました。「天狗岳怪死事件」と。

**大栗** 天狗岳……怪死事件……。

**五十嵐** そうです。事故ではなくて事件と。ただ、ちょうどその時期に芸能人の熱愛の記事が出て、世間の注目がそつちに移つてしまつたんですよ。

**大栗** ああ、なるほど。

**五十嵐** この事件を調べれば調べるほど、怪しいことがどんどん出てくるんです。私は調査にのめり込んでいきました。その途中で私はこの事件について……。

**大栗** 新聞社に問い合わせた？

**五十嵐** はい、その通りです。しかし、警察の報道協定で規制が敷かれたのか、あるいは何かしらの圧力がかかったのか、新聞社から回答はありませんでした。

私はだんだん五十嵐の話に興味が湧いてきた。与太話にしては設定がしっかりしている。これはいよいよスクープのタネになるかもしれない。

**五十嵐** 私はこの事件には絶対何かあると思っています。疑問点が多すぎるんですよ、ロツジで六人が亡くなって、親族は騒がなかったのかと……。

**大栗** そうですね。

**五十嵐** それに、こんなに立派なロツジだったら雪崩が起きてもある程度は生活できたんじゃないかとか。雪山のロツジですよ？ 不慮の事態に備えて、いろいろ

ろ準備されたりするものじゃないんですか？ 新聞でしか見たことがない

ので詳しい設備まではわからないですが……。

**大栗** ロッジに行こうと試みたりはしたんですか？

**五十嵐** 行きたいとは思っていたのですが、管理人に連絡が取れずでして……。

**大栗** なるほど。

**五十嵐** もしかしたら、六人は登山中に雪崩に巻き込まれて、やっとのことでロッジ

を見つけたのかも……収納で備品を確認している間に死んでしまったとか

……。限界状態だったんでしょうね。赤い屋根のロッジは目立つから、遠く

からでもわかりそうなものですけど……でも吹雪ふぶいていたら一メートル先も

見えないって話も聞いたことがあるし、そんなものなんでしょうかね。

**大栗** ふむ……。

**五十嵐** そういえばこの事故の後、ロッジは閉鎖してしまっただけです。

**大栗** ふむ……。

**五十嵐** 大栗さん、ちゃんと聞いていますか？

**大栗** すみません。話を聞いて考えていて……ん？ 妙だな……。一つだけ、五十

嵐さんの発言で気になったことがあるのですが、聞いてもいいでしょうか？



➡ P.015

違和感③ 新聞と五十嵐の発言の違和感は？

↓新聞の「  
知っている。」

「なのに」

「について